

つきたい力

情報活用能力を育み、学びに向かう力
 自ら課題を見つけ、探究し、深く学ぼうとする力

取組みの概要・ポイント

授業中に議論したり、クリエイティブな活動をするための時間を確保するために、
 家庭学習で授業の一部(主に導入、基礎・基本的な内容)を映像教材や動画などで
 あらかじめ受講した上で授業に臨む、「反転学習」の取組みを実践した。

具体的な取組みの内容 反転学習の実践



事例1 惑星の自己紹介で特徴を理解しよう(中3理科)
 ①予習動画を視聴し、惑星の基本情報を学び、各自でまとめる。

授業 ①学校で惑星の自己紹介文を考え、ペアで作成する。
 ②クラスで発表する。

事例の詳細はこちら→

事例2 東南アジアの経済発展をジグソー学習で(中1社会)
 ①自宅で予習動画を視聴し、事前確認と課題に取り組む。

授業 ①学校でジグソー学習により、3つの視点から東南アジアがどのように発展したかに迫る。
 ②各班の考察をもとにクラス全体で話し合う。

事例の詳細はこちら→

反転学習の実践例

家庭学習課題(自宅などで学習)

- 動画を視聴する
 - ・教員作成動画
 - ・NHK for School
 - ・You Tube など
- 教科書の文章を読む
 - ・国語や道徳などの教材を読む
 - ・感想を記入する
- 実験・観察を行う、結果を撮影する
 - ・星や月の観察
 - ・身近な植物の観察
- コンテンツに取り組む
 - ・ARのパーツを作成する
 - ・教科書会社などのコンテンツに取り組む

家庭学習を出す際の工夫

- OneNote、Keynote等で学習内容をまとめさせることにより、リアルタイムで学習の取り組み状況の把握をすると共に、生徒間での効果的な共有化を図る
- Formsによる小テストやアンケートにより、アウトプットの場を確保しつつ、生徒個々の理解度を把握・確認

授業

- 家庭学習課題で学んだことをもとに
 - ・議論する
 - ・創造する
 - ・ディベートをする
- 発展的な内容を学習して深める
- 応用問題や演習問題に取り組む

⇒アウトプット中心の授業スタイル

取組みを通しての子どもの変容

自宅での事前学習による知識の習得が行われた状態で授業に臨むので、アウトプットの時間が増えた。
 その結果、生徒のさらに学ぼうとする姿勢が多く見られるようになり、家庭での学習時間も増えた。
 さらに、課題が解決すると、発展的な内容にも取り組むことができるようになったので、より深く学ぼうとする生徒が増えた。

アンケート項目	R3.7月	R4.11月
家での勉強時間(30分以上)	58.6%	73.4%
タブレット活用による学習意欲の向上	76.4%	79.0%